

科目名	ボランティア 1							年度	2024
英語科目名	Volunteer 1							学期	通年
学科・学年	音響芸術科 1年次	必／選	選	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	柴徳昭	教員の実務経験		無	実務経験の職種		ミュージシャン・エンジニア・プロデューサー		
【科目の目的】 ボランティア活動（社会貢献・地域貢献）を通してコミュニケーション能力を育み、社会人としての思いやりや、社旗と関わる喜びを得る。									
【科目の概要】 社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ます。									
【到達目標】 A. 積極的にボランティアに取り組み、1 団体に関する社会貢献を経験する。 B. 1 団体に関して、様々な人々とのコミュニケーションを通じて人間力を高める。 C. 社会人としての思いやりがあり、社会と関わる喜びを得る。									
【授業の注意点】 地域社会と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成、ボランティアの観点から、私語や態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。ただ参加するだけでなく、社会貢献を前提としたマナーで自覚を持って参加することを求める。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	積極的にボランティアに取り組み、1 団体に関する社会貢献を経験する	社会貢献について考えることができる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	1 団体に関して、様々な人々とのコミュニケーションを通じて人間力を高める	様々な人々とのコミュニケーションができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	社会人としての思いやりがあり、社会と関わる喜びを得る	社会人としての思いやりがある			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 特になし									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づいて行う。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ボランティア 1			年度	2024
英語表記		Volunteer 1			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音楽貢献	地域貢献	1 音楽活用	音楽活用の基礎が分かる	3	
			2 地域貢献	地域への影響を理解		
			3 考察活動	貢献方法を探求		
2	ボランティア	志活意義	1 意義理解	ボランティアの意義が分かる	3	
			2 ボランティア	社会的な役割を理解		
			3 参加背景	積極的な参加意欲		
3	SDGs1項目目	持続目標1	1 SDGs1理解	SDGs1の背景を把握	3	
			2 具体目標	主要な取り組み理解		
			3 取り組み	関連ニュースを読解		
4	事例1解析	事例探訪1	1 事例探求	SDGs1の事例を分析	3	
			2 SDGs1事例	実践的な活動を理解		
			3 実践検証	成功の要因を議論		
5	SDGs2項目目	持続目標2	1 SDGs2理解	SDGs2の背景を把握	3	
			2 具体目標	主要な取り組み理解		
			3 取り組み	関連ニュースを読解		
6	事例2解析	事例探訪2	1 事例探求	SDGs2の事例を分析	3	
			2 SDGs2事例	実践的な活動を理解		
			3 実践検証	成功の要因を議論		
7	SDGs3項目目	持続目標3	1 SDGs3理解	SDGs3の背景を把握	3	
			2 具体目標	主要な取り組み理解		
			3 取り組み	関連ニュースを読解		
8	事例3分析	事例探訪3	1 事例探求	SDGs3の事例を分析	3	
			2 SDGs3事例	実践的な活動を理解		
			3 実践検証	成功の要因を議論		
9	SDGs4項目目	持続目標4	1 SDGs4理解	SDGs4の背景を把握	3	
			2 具体目標	主要な取り組み理解		
			3 取り組み	関連ニュースを読解		
10	事例4研究	事例探訪4	1 事例探求	SDGs4の事例を分析	3	
			2 SDGs4事例	実践的な活動を理解		
			3 実践検証	成功の要因を議論		
11	SDGs5項目目	持続目標5	1 SDGs5理解	SDGs5の背景を把握	3	
			2 具体目標	主要な取り組み理解		
			3 取り組み	関連ニュースを読解		
12	事例5検討	事例探訪5	1 事例探求	SDGs5の事例を分析	3	
			2 SDGs5事例	実践的な活動を理解		
			3 実践検証	成功の要因を議論		
13	実践	実践支援	1 ボランティア	ボランティア活動体験	3	
			2 現場体験	問題解決の実践を知る		
			3 問題解決	自身の役割を自覚		
14	報告	成果共有	1 報告作成	活動の振り返りを行う	3	
			2 体験共有	実績を整理し発表		
			3 振り返り	改善点の提案を行う		
15	レポート	総括報告	1 レポート作	レポートの基本構造	3	
			2 課題提出	内容の整理・要約技術		
			3 添削対応	正確な情報の提出		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等